

病院の 実力

～宮城編 72

「腰椎椎間板ヘルニア」は、腰の骨と骨の間でクッションになる椎間板が飛び出し、神経を圧迫して腰や脚が痛む病気だ。時間とともに症状が治まることも多いので、まずは鎮痛剤や、原因となっている神経の周囲に麻酔剤を注射する「神経ブロック療法」で痛みを抑え、様子を見るのが基本だ。症状が治まらなかったり、再発を繰り返したりする場合は、飛び出した部分を切除する手術を検討する。仙台整形外科病院（仙台市）の佐藤哲朗院長によると、「手術をしなくても治るタイプかどうかを見分けることが大切」だ。

「腰部脊柱管狭さく症」は、加齢によって椎骨をつなぐ軟帯が厚くなったり、椎骨がずれた

病院の実力「腰と首の手術」

医療機関別2012年治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	①腰椎椎間板ヘルニア	①で切除術のうち低侵襲手術	②腰部脊柱管狭さく症	②で切除・形成術のうち低侵襲手術	③脊髄腫瘍
仙台整形外科	126	43	151	72	4
総合南東北	78	78	85	65	3
仙台社会保険	73	0	98	0	3
宮城 松田	49	0	143	0	0
東北労災	28	0	132	0	8
みやぎ県南中核	10	0	4	0	0
宮城中央	7	0	26	0	0
東北大	0	0	19	2	26
大原総合	70	54	107	15	2
寿泉堂総合	61	0	24	0	1
福島 総合南東北	57	27	96	6	15
さとう日出夫整形外科	32	32	46	24	0
公立岩瀬	14	0	20	0	0
福島県立医大	12	10	85	10	15

日本脊椎脊髄病学会と日本脊髄外科学会が認定する指導医がいる施設などを対象に調査。

腰と首の手術



仙台整形外科病院
佐藤哲朗院長

薬剤投与後に必要性検討

りして、神経が通る脊柱管が狭くなって起きる。歩くと脚が痛

くなるので、「まだ活動的な60〜70歳代の場合は影響が大きいい」（佐藤院長）。鎮痛剤を服用して様子を見ることも多いが、極端に狭まっている場合は、症状が重く、自然に治ることは少ない。

り、神経に圧力がかからないようにする。同病院では、「手術するかどうかは、本人の希望やライフスタイルに沿って決めていく」という。

どちらも、顕微鏡や内視鏡を使って、皮膚や筋肉の切開幅を小さくして行う低侵襲手術が広がっている。手術後の回復が早く、入院期間が短くなるのが利点だ。

「脊髄腫瘍」は、脊髄やその周辺組織にできる腫瘍を指す。一般的には、最初に手足のしびれが表れ、腫瘍がある局所の痛みは少ない。腫瘍が大きくなるに従い、手足のまひが出てくるので、早期診断が重要だ。

全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。次回は2月2日「頭頸部がん」の予定です。